

問 未来へ豊かさを残したい
(菅野川 塩田ダム構想は)

答 河川整備を進める

北川 清司 議員

問 (1) 環境…山や川、森を大事にしながら暮らしているこの地域、自然がくれる豊かな環境は大きな誇りである。しかし地域を見渡し、みるみる古く昔より菅野川の流れを見てきたが、1年の内、夏、冬を通じ下流は3、4ヶ月間、全く水がなくなり砂ぼこりが舞う。このような状態は、生物、生態系が壊されるだけでなく、感性的豊かな子どもたちが育つ環境にも大きな影響をきたしている。

ある。これまで県は地形測量をもとに、ダム概略設計を進め、平成13年17年度まで5年間、水量調査も続けている。ダム建設を叫ぶ社会情勢ではないが、県においては現在7つのダム建設を進めている。世代を超える、豊かさを残したいが、構想に熱意は。

市長 菅野川の水不足は充分理解しているが、地下水もあり農業についてもほ場整備も進める状況にある。また、ダム構想については、県より協議があったが、県はダム建設の方向ではなく河川整備の充実の考えであることから、整備の促進に努力をしていきたい。

問 公共交通の早期実現を

答 10月迄に結論を

岡田 初雄 議員

問 路線バスの休廃止が提案される中で、速やかな公共交通の早期実現。出来る事から実施すべきであると思えますが。

市長 国、県の指導を受けながら、市・地域自治会・事業者も含めた中で10月までにその方向を決定したいと思っています。

市長 合併時の約束事、協定項目の実施は説明不足であると思えますが。

問 庁舎建設に熱心ではないか

答 医師確保、公共交通も取り組んでいる

山根 昇 議員

問 総合病院の整形外科医引き上げ通告はいつあり、どう対応されたのか。すでに、救急車の患者搬送平均時間は30分を越え県下では、最悪とのこと。長野県の町立病院では、「病院の実態を住民にオープンする」出前講座を実施し、「地域医療に熱心な医師」を確保し、総合病院を再開している。赤字財政の自治体に医師は来ない。

市長 旧町時代からもあり、県と市で路線維持のため、総額2千5百万円を補助し、継続している。事業者に対しては、今後一年間を目標に一緒に良い公共交通システムを協議検討している。

市長 11月17日に教授から話があり、何回も要請した。最善の方策をつくしてきた。議会でも、県知事や議長に陳情していただいた。その結果4月から、週2日の半日診察が確保でき、今後とも引き続き

